

1 発問や指示は的確に

☆分かりやすく伝えるために

生徒がノートを書いているときや、グループ活動のときなど、聴くという姿勢がないときに、発問・指示をしても生徒は理解できません。「話し合いを止めて、前を見てください」と指示した後に発問するなど、まずは生徒の聴く姿勢をつくるのが大切です。

「質問」と「発問」の違いは？

文部科学省「補習授業校教師のためのワンポイントアドバイス集」によると、両者の違いは次のようにまとめられています。

質問：子どもが本文を見ればわかるもの

(質問例) Q 桃太郎は鬼ヶ島へ鬼退治に行ったのですか？

A はい。(※ 子どもの考える余地がない)

(質問例) Q 桃太郎はどこへ行ったのですか？

A 鬼ヶ島へ。(※ 一問一答で終わる)

発問：子どもの思考・認識過程を経るもの

(発問例) Q どのようなお話ですか？

A 桃太郎が、犬と猿と雉と力を合わせて鬼ヶ島の鬼を退治した話。(※ 「力を合わせて」という内容価値とともにあらすじも述べている)

主要な発問と補助的な発問

発問には、授業のねらいを生徒が押さえられるような主要な発問と、それを導いたり補ったりする補助的な発問があります。

発問のタイミングは、授業の目標に合わせて構成しましょう。

(例1) 授業の最初に主要な発問を行う。

授業の後半でその確認や応用となる補助発問をすることによって、定着を図る。

(例2) ねらいに迫るための補助的な発問をすることによって、思考を深める。

その後、主要な発問を行う。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

発問・指示を、より分かりやすくするためには…

言語指示だけでは理解することが難しい生徒もいます。こうした生徒には聴覚だけでなく視覚からも理解できるように工夫をしましょう。

- 例えば、
- ・発問内容を書いた紙を黒板に掲示する
 - ・教科書や問題集のページをスライドで提示する
 - ・作業の工程を図やイラストで示す

「発問・指示は端的に、分かりやすい言葉で」を常に心掛けましょう。



発問の例から考える

次の発問の仕方には問題があります。改善点を考えてみましょう。

「保温ポットに入れた200gの水をクラス40名が30回ずつ振ったら水の温度は何℃変化するでしょうか？」（理科・物理基礎・熱と温度）

発問の中にたくさんの情報が提示されており、生徒が内容を正しく理解できないことも生じます。内容を段階的に整理して視覚情報を効果的に活用して伝えるとよいでしょう。

改善例

「保温ポットに水を200g入れます」
「これをクラス40名が順番に30回ずつ振ります」
「全員が振り終わったとき水の温度は何℃変化しているでしょうか」
*実物・実演、ポイントを書いたカード、イラストなどの活用が効果的です。

話し方のポイント

授業の導入のトピックス

授業の最初に、生徒の気持ちを引き付けたいものです。そのためには、導入で何を行うかがポイントになります。生徒の関心を高めるための展開、授業の内容につなげるための展開等、生徒の実態に合わせて工夫しましょう。

生徒の顔を見る

「このことを分かりやすく伝えたい」と思うとき、教科書や黒板を見ながら伝えたのでは、生徒の心には何も響きません。

常に、生徒の顔を見て話すように心掛けましょう。一番後ろの生徒に向かって話すときの声が教室中に響く声の大きさです。生徒に向かって、生徒の表情を確かめて伝えます。

ポイントをおさえるとき

「これが大事なこと」と伝えるとき、話し方を変えてみましょう。あえて小さな声で話す、反対に大きな声で強調する、ゆっくりと話すなどによって、注意を引くことができます。

また、言葉を繰り返したり、書き留めたりすることも効果的です。また、教員が沈黙することで生徒の注目が集まることもあります。

生徒のやる気を促す言葉掛け

「認めてもらいたい」、「向上（成長）したい」という願望は誰にでもあるものです。その願望を叶えるような建設的な言葉がやる気を引き出します。例えば、「この問題は難しい、…」の後に「だからできないのね」という否定的な言葉を続けるよりも、次のステップを示した「けれど、解く糸口を見付けられたら素晴らしいよ」と励ますことでやる気を引き出すことができるでしょう。生徒の状況や個性・価値観などを尊重する言葉やあるがまま受容している言葉を投げ掛け、前向き・肯定的な評価や助言をするように心掛けましょう。



ステップアップ課題

- ① 授業を参観してもらう際、次の点を確認してもらいましょう。
 - ・「質問」ばかりになっていないか。
 - ・聞き手が理解しにくい発問はなかったか。
- ② 同僚の教員と授業を参観し合い、それぞれの話し方についてアドバイスし合ひましょう。改善が必要な発言については、どのような話し方が望ましかったか、具体的に挙げましょう。良かった点も具体的に指摘し合ひましょう。

☆生徒の疑問に対して

生徒が授業中、疑問に思ったことに教員が答えることは、もちろんその生徒の理解を助けることになります。それだけではなく、クラス全体で共有することにより、新たな疑問がでてくる場合もあり、理解が深まることが期待できます。そのため、普段から話し合いやすい雰囲気をつくることが重要です。